

<b>〔科目名〕</b> 経済特殊講義Ⅱ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 秋葉まり子・丸山千賀子	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 集中講義期間の休憩時間及び授業後 <b>場所:</b> 非常勤講師控室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>近年、情報化の進展や環境問題など様々な社会問題が起こる一方、消費者の多様なライフスタイルや価値観を反映して、商品・サービスが多様化しているため、今後の企業には営利の達成だけでなく、消費者の視点を取り入れた経営が求められている。また、消費者と企業による健全な市場の実現を通して、消費者保護と社会の発展が期待できる“消費者志向経営”の重要性が消費者政策において認識されるようになってきている(消費者志向経営とは、企業が消費者のニーズや期待にこたえることにより、組織の社会的責任を果たして持続可能な社会に貢献する経営のあり方である)。これはSDGs時代においてはサステナブル経営ともいわれ、持続可能な社会へ向けた今後の経営のあり方として企業においても重視されてきている。</p> <p>このような社会背景を踏まえ、この授業では、消費者の生活に焦点を当て生活経済の基礎的事項を学んだうえで、企業において重視されてきている消費者志向経営について解説する。</p> <p>秋葉担当部分(6回分)では、家計の経済活動や行動を、金融の分野を中心に理論的、実態的に捉えると共に、経済社会の仕組みとその変化が私たちの生活経済にどのような影響を与え、どういった課題を生じさせているかを学ぶ。</p> <p>丸山担当部分(9回分)では、今後重視されてくるといわれている消費者志向経営について講義するとともに、資料や映像を使って企業不祥事や企業の取り組み、企業と消費者問題の事例、SDGs やエシカル消費、シェアリングエコノミーといった現代的なテーマを紹介する。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>この科目では、これまでの消費者の生活の営みにおける様々な課題を踏まえ、我々が生活する社会の仕組み、システムの変化にも目を配りながら広い視野から経済を考えること、消費者の視点から企業経営を考えることにより、行政・企業・消費者の三者協働による新しい社会システム構築について考えることを目標としている。</p> <p>変動する社会の中で、経済生活を営む際に直面する問題や課題とは何なのかを捉え、これまでどういった対応策が模索され、どう解決することが望ましいのか、といったこと等を考えながら、自立した消費者として社会における経済活動のあり方を探求する姿勢と能力を身につける。</p> <p>この科目を学ぶことにより、生活に関連する経済の知識が身につくとともに、企業と消費者の新しいあり方や相互連携についての理解が深まるため、就職活動の面接などにも役立つことがあるため、キャリア教育にもつながるといえる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>中間目標として、消費・経済社会における基礎的な知識を理解することにより、各人が学問領域を広げ、現代的課題に関する問題発見能力を養い、洞察力、分析力を身につけることを目標としている。</p> <p>最終目標としては、我々が生活する社会やその仕組みの変化を理解し、今日直面しているいくつかの具体的な問題や地域の経済的課題に迫りながら、生活経済を、広い背景の中で総合的、かつ具体的に理解することを目指す。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>講義内容に合わせて、様々な関連文献・映像資料を使って、具体的でわかりやすく、興味の持てる授業にするよう工夫している。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 丸山千賀子 『消費者志向経営 企業と商品・サービスについて考える』 開成出版		
<b>〔指定図書〕</b>		

〔参考書〕	
〔前提科目〕	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
2回の小テストの他、授業中に小レポートを課す。	
〔評価の基準及びスケール〕	
2回の小テストにより評価する。 レポート課題・授業への参加姿勢も評価する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小レポート・授業の参加態度 10%</li> <li>・小テスト(2回) 90%</li> </ul>	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
丸山担当部分では、教科書を授業で使うほか、試験時には持ち込みを前提とする課題を出しますので、授業時には必ず教科書を持ってきてください。なお、試験時に持ち込む教科書は、他人の書き込みやアンダーライン等、解答のヒントとなる形跡があるものは認められません(自分で書き込んだものについては可)ので、注意してください。	
〔実務経歴〕	
該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： 家計の所得と消費・貯蓄について 内 容： 消費と貯蓄の基礎理論  資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 貯蓄の保有形態 内 容： (1)貯蓄と金融資産について  資料配布
第3回	テーマ(何を学ぶか)： 貯蓄の保有形態 内 容： (2)金融資産のグローバル化  資料配布
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 日本の家計貯蓄の現状 内 容： 家計の貯蓄率の変化  資料配布
第5回	テーマ(何を学ぶか)： 生活とリスク管理 内 容： (1)社会保障制度と保険 (2)消費者金融について 資料配布

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第1回～第5回までの内容のまとめと小テスト</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): イン트로ダクション 内 容: 消費者政策と企業経営の関係について考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費者志向経営とは何か 内 容: 消費者志向経営の意義と注目されてきた社会的背景について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業の社会的責任(CSR)と消費者志向経営 内 容: 企業の社会的責任(CSR)からみた消費者志向経営の意義について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費者の視点を考慮した商品とサービス 内 容: オープンイノベーション・商品コンセプトについても考える。無印良品の事例や、成功した商品コンセプトの作り方について映像も併せて参照する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費者志向経営が社会に及ぼす効果 内 容: 企業・消費者・社会の面から消費者志向経営の影響を解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報開示の重要性について 内 容: 情報開示の重要性について整理するとともに、企業不祥事の事例を紹介する。内部告発から企業不祥事が明らかになった事例を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費社会の様々な環境変化(1) 内 容: SDGs・ESG 投資</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費社会の様々な環境変化(2) 内 容: シェアリングエコノミーなど、最近のテーマについて取り上げる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめと小テスト 内 容: 第7回から第14回までのまとめと小テスト</p> <p>教科書・指定図書</p>